観光業における民宿産業の持続発展の可能性に関する考察
中国江南水郷の古い町ウーチンを事例に

Consideration of The sustainability of guesthouse business in tourist business.

A case study of Wuzhen where is a town in Chinese southern rivershide district.

TangLimin
湯　麗敏

観光客の数が年間 40 億人に達した世界一の観光規模を誇る中国において、農村観光がすでに主力となりつつあり、国内外の観光客の多様なニーズを対応するために、いわゆる「民宿」が全国範囲で急速に増えている。中国の民宿業の現状及び民宿産業の持続発展の可能性、民宿業の今後の課題、問題解決策について考察するため、2016 年 3 月に中国江南の古い町ウーチンへ視察に行き、そこでの実地体験と調査をしてきたことを小論にまとめた。

キーワード　　観光、民宿、体験、観光客、サービス、発展

１、はじめに

ここ三十数年、中国の経済は顕著な発展を成し遂げた。それに従い、豊かになった中国人は、国内ばかりではなく、国外旅行にも行くようになり始めた。2015 年のデータでは、「国内旅行者はのべ 40 億人、海外旅行者は、のべ 1 億 2 千万人を突破した」。[1]そのうち、499 万人が日本にやってきた。

訪日外国人が過去最高を更新する中、日本の一部の地域では宿泊施設が不足する現象が多発したため、日本政府にて「国家戦略特区で、外国人の宿泊を想定した旅館業法の特例（いわゆる特区民泊)」が打ち出された[2]。民泊解禁を打ち出してから、住宅の空き部屋に外国人旅行者を泊める「民泊」スタイルは急速に広がりつつある。

同様に中国でも、国内外の観光客の多様なニーズを対応するために、「民宿」は全国範囲で急速に増えている。特に都市部周辺の農山村では「民宿」が雨後の竹の子のようにどんどん現れた。2015 年 11 月には中国の黄山市で第一回全国民宿大会が開催され、中国の民宿発展について報告があり、民宿の経営者、投資者、研究者などの代表が会議に参加していた。そこでの議論により中国民宿産業の発展方向が明確になりつつある。

年間の国内観光客の数が 40 億人に達したこの世界随一の市場において、農村観光はすでに中国国内の観光市場の主力軍になっている。中国国家旅遊局の統計によると「目下全国都市住民の週末・休暇及び祝祭日に行く観光の目的地の 70%以上で、周辺の農山村が選ばれている。」という[3]また、「2014 年中国に農家楽スタイルを取る民宿が 190 万軒を超え、農村観光の特色持つ村

の数が 10 万村あり、接待を受けた観光客数は、すでに 12 億人に達した。これは全国観光客の総数の 30%を占める数字である。農村観光の営業収入は、3200 億元に達し、3300 万人の農民が受益している。」[4]

以上を取ってみても、観光業をいっそう発展させるためには、インフラ整備としての宿泊業の発展が欠かせないことがわかる。しかし、日本も中国も、スタンダート的なホテルだけでは観光客の多種多様な要望に対応しきれなくなっており、それを補完する機能として、民宿産業の発展がいっそう求められるように感じている。

そこで、民宿業の現状及び民宿産業の持続発展の可能性、民宿業の今後の課題、問題解決策について考察をするため、2016 年 3 月に中国江南の古い町ウーチンへ視察に行き、そこで実地体験して調査をしてきた。これから、ウーチンのことを事例に、以下 4 点を持って本稿をまとめたい。

２、中国民宿の発展背景

中国では現在民宿が観光客に盛んに利用されているが、これはここわずか十何年のトレンドであり、しかしながら短期間で宿泊業において、凄まじい発展が見られた。

中国産業調査研究ネットワークの統計から見ると、2015 年中国民宿業市場の規模は、人民元にして約 200 億元に達した。「2016 年 1 月までに民宿の軒数は 42658 軒があり、民宿業に就業している従業員の数は、90 万人まで増えた。しかし、民宿業の発展速度が依然としてどんどん伸び続けている。特に経済が比較的発達している地域及び観光地の周辺では、民宿が産業として相当規模にて形成されている。2020 年には民宿業の営業収入が人民元で 362.8 億元に達す」と予測するデータもある。[5]

目下、民宿業がこれだけ活気づいているのは以下三つの原因があると筆者は推察する。

① 国民全体の経済水準を体現する現象。

経済の発展によって個人の可処分所得が増えている中で、物質的な充足感のみならず、精神的な充足感を求め、同時にその質を高めたいと思う人が増えている。そして、日ごろさまざまな出来事に忙殺されている生活から抜け出して、非日常的な体験を求めることにより、疲労とストレスを解消し、心身ともにリラックスすることを求めた結果、休暇や祝祭日に家族とあるいは、友人同士で民宿を利用した旅行をする人が増えている。

② 都市部の生活環境の悪化に対する反動。

大気汚染の報道が日常的にされるようになって久しく、都市住民はチャンスがあれば、できる限り忙しい都市生活、汚い空気から逃げ出したくて、何日間かでも郊外のすがすがしい空気を吸いたいと、切実に願うものである。大自然の美しい景色と都会では味わえない農山村の自然風味を自由自在に楽しみたいがための民宿体験が都市部住民の選択肢の一つとなるのも自然の流れである。

③ 中国政府が推進する政策。

2014 年 8 月、中国国務院が「観光業の改革と発展を促進に関する若干意見」が発表され、「農村観光を発展することに力を入れよう」と、明確に指示したことを受けて、各地でそれに呼応する形で民宿の発展も後押しされた。2015 年の 11 月に「生活サービス業の発展を加速、消費構造のアップグレードについての指導意見」が国務院常務会議で審議され通過している。そして 2016

年の１月には、もっと具体的に、レジャー農業と農山村観光業の発展に力を入れ、レジャー荘農、農村ホテル、特色がある民宿、個人キャンプ、戸外スポーツなどの農村レジャー休日製品を計画的に開発するようにという内容について、中央政府から具体的な指導意見があったことを受けて、それが農村観光、民宿業、レジャー製品の開発を後押しすることとなり、一気に力を注ぎこまれ、発展が一層加速された。

３、中国民宿の特徴分析――ウーチン民宿を事例に

中国の民宿産業の発展は欧米、日本、台湾などの国や地域と比べれば、比較的に遅い。中国の民宿は、地域の自然環境と経済発展の状況及び地域文化の違いによって、各地の民宿事情も千差万別である。

民宿は、たいてい観光資源が豊富な南方の著名な観光地及び都市部の郊外、農山村地域にある。たとえば、浙江省の同郷、ウーチン、杭州、雲南省の麗江、大理、福建省の武夷山地域、四川省等の地域に多く点在してある。特色がある民宿を利用することは、多くの国内外の観光客の選択となりつつある。

都会の人々は、日ごろ、渋滞と高層ビルに囲まれた無機質な空間の中で窮屈な生活を強いられている。リラックスできる時間と空間にあこがれるのはとても自然である。一般的な観光旅行の場合では、設備や部屋の配置が格式化、標準化されている所謂シティホテルへの宿泊が多かった。大抵の民宿の施設にはそれほど豪華な設備は備わっていないが、しかし民宿の利用により、地元の独特な文化、生活及び民俗習慣を体験ができ、人間味あふれる優しさ、温かさ、真心こめたおもてなしを身近に感じることができる。今、中国では景色が良いところに民宿ありというように、このような機運に応じて民宿がどんどん生まれているところである。

民宿の特徴

① 民宿は、民間で使われずにある空き家を利用して、観光客に宿泊とサービスを提供する場所である。観光客はそこで、地元の歴史文化、民俗習慣を肌で体験でき、豊かな自然の中で静かにのんびりと、ひと時を過ごせるのが楽しみの一つとしている。

② 民宿は、大抵観光資源が豊富な都市部の郊外或いは農山村にあるので、農作業の体験も可能であり、新鮮な農産物を味わうこともできるので、観光客にとっては、民宿での滞在は、普段体験できないことを体験できるので、ある種の新型生活の体験とも言える。

③ 民宿の経営者は、ほとんど地元生まれ育ちの農民であり、彼らは民宿の経営者でもありながら、民宿を利用するお客さんに直接に温かいサービスを提供する者でもある。経営方式は、家庭的な規模で営まれる。観光客は、直接地元住民との触れ合いを通じて、地元の伝統行事、お祭りなどの活動にも参加でき、日常と違ったところにいても、家にいるような家庭的な温かい雰囲気が感じられる。

では、実際に浙江省ウーチンの事例を見てみよう。

浙江省にある水郷の街であるウーチンは、中国の明・清時代の街並みを今に残しており、川のほとりに家屋がずらりと立ち並んである。何百年以上の歴史がある古い建物ばかりであり、昨今はそれらの外見を保ったまま内装リフォームを施すことが多い。それぞれの家の装飾風格は違っ

ていても、どれも伝統的な中国江南人家の風情に満ち溢れている。人文と自然景観の特色があるウーチンの民宿は観光客を引き付け、利用する観光客はその建物の中に身を置くことで、建物が経験した何百年もの時間の長さを肌に感じ、当地の風俗、風土を実体験する。

ウーチンの民宿一泊の料金は、人民元 680 元～3800 元で、決して安くはない。にもかかわらず現在、かの地の民宿はほとんどが満員であり、事前の予約なくしては部屋の確保が難しい。ここにビジネスの契機を見出し、多くの人が自宅を改造し民宿業を営み始めているが、依然として供給が需要に追い付いていないのが現状である。

民宿の運営方式では、ほかと違う大きな特徴の一つは民宿の大家さんは、必ず地元の住民ではなければならないということである。通常、一軒の民宿の管理、サービス、掃除、食事の用意等すべては、大家さん夫婦で統括するのが一般的である。但し、民宿の大家だからと言って、民宿の所有者ではない。ウーチンのすべての民宿の大家さんは、皆ウーチン観光株式有限会社の社員であり、「雇われ大家」なのである。ウーチンの民宿の管理者は、地元の住民でなければならないというのは、ほかでもなく、地元の出身者であれば、ウーチンの人情、風土、習慣に対しては、よりよく知っているし、よき古きこの水郷の本来の風貌・「オリジナルの味」を保つことの重要性を理解し、そして訪れてきた観光客に気持ちよく紹介ができ、水郷の風情を十分感受してもらうためだと考えられる。

ウーチンにはさまざまな民宿が存在するが、その管理には、統一された基準がある。たとえば、料理の価格の設定、厨房に使われている調味料などすべてウーチン観光株式有限会社が作った基準に即してやらなければならない。各民宿には４～８の宿泊できる部屋があり、部屋には、現代化的な生活設備が揃ってあり、エアコン、テレビ、電話はもちろん、各部屋に無料で使える無線ラン、WIFI があり、無料で提供している飲料水もある。食堂には、テーブルの数が二つしか設けられない。宿泊客は必ずウーチン観光客サービスセンターで受付の手続きをしてから、指定された民宿に宿泊する。民宿の大家さんは、宿泊客を勝手に受けいれられないということになっている。

有限会社側はすべての民宿の運営事情を定期的に監督、検査を実施する。終始厳しい管理を貫いていることにより、民宿のサービスレベルも高くなり、地元の民家の使用価値も上がってくるし、地元の原住民の就職率も高められた。もっとも良かったことは、原住民の仕事へのモチベーションを高めたことで、観光客へのおもてなしの意識、サービス意識の転換を図ることができた。さらに、ウーチンの民宿業においては、全体の業種の競争力が高められ、個々の悪質的な競争が避けられた。そして経営上においては、管理もしやすくなり、末端まで監督と指導が浸透できる。これらを実行できたからこそ、ウーチンの民宿の評判が良くなった。観光客が宿泊を通して、2000 年以上の歴史を持つウーチンという古い町の生活を体験でき、川、橋、人家の風情のあるながめが楽しめられる。中国江南地区にある六つの古い町のなかで、ウーチンを訪れた観光客の数は最も多い。

４、民宿産業の持続発展の可能性について

中国社会の発展の勢いに追随するかの余のように、観光業も盛り上げを見せている現在では、民宿業の発展も持続可能なことだと考えられる。理由としては、以下４点を述べたい。

① 経済の発展と共に民宿の需要がますます大きくなってくる。

中国社会は改革開放以来、多くの人々が以前に比べて物質面においては、ある程度物欲を満たされるまでの生活水準を手に入れつつある。一方、より多くの人が精神面での安らぎや満足を求めることを重要視するようになっている。今、都市社会において、生産においても消費においても主力群となる20代から40代の青壮年世代は高等教育を受けた人たちも多く、自分の親との価値観や生活環境が違い、日ごろの生活に求めるものにもジェネレーションギャップがある。特に経済活動の中で、たまっているストレスをどう解消するかについて、よく考え、そしてそれを実行に移す世代であり、そんな彼らが、週末或いは祝祭日にドライブをかねて、空気が悪かった都市部を離れて、自然環境の良いところにある民宿での生活を送るのを楽しみにする人がますます増えているので、民宿という存在が都市生活を受ける若者の心のオアシスとして、その存在が確立されつつあり、今では美しい観光地の周りに必ず民宿がある。

② 昔のままの自然がある生活を懐かしむ。

非日常的な民宿での生活から、子供時代の生活環境や美しい自然があった生活を体験ができるので、帰郷の疑似体験をすることができる。都市部の高層マンション生活はどこも同じようなスタイルで、変化がない。それに比べて民宿には昔のままの生活環境と状態が保たられているばかりでなく、人情味が感じられる。そこで自由自在の洒脱、天・地・人一体になるような生活スタイルが求められる。

小川、橋、人家があり、田園風景、田んぼ、畑、庭がある。自給自足の食生活を営み、さらに農作業の体験もできる。もっとも大切なのは、民宿では地元民の生活様式の体験ができ、地元の住民との触れ合い機会も多く、その土地の独特な風土人情、郷土文化の体験ができるということである。それがちょうど今の都市部に暮らしている自己主張が強い人々が求めていることと合致するのである。民宿は都市部の市民と農山村に暮らしている人々との触れ合い、交流の場として機能するのである。

③ 豊になってきた都市部市民の消費観念、価値観への合致。

民宿はホテルと違って、規模がそれほど大きくないのが一般的である。宿泊料金も一律ではなく、幅がある。実際の利用者の身分、年齢の差も大きい。そこでの消費により価格が違ってくるから、一律ではない。比較的にホテルより利用しやすいシステムもある。もともと民宿は農村にある家屋で、利用者が増えると共に民宿も建て直したり、拡大したりするのもよく見られているが、今の民宿は現代建築風格の中に古典の元素も保っていて、民宿の所在地の風土に合わせてリフォームされるものが多い。室内設備は現代生活に合わせて快適に過ごせるように一式そろえられており、清潔で、民宿の管理者は、観光客に対して、真心こめてのおもてなしで対応するので、観光客がまるで家に帰ったような温かい家庭の雰囲気を感じられるのが民宿のいいところだと思う。古風質朴で、情調がある、自然の息吹がみなぎる民宿だからこそ、ますます多くの観光客を魅了する。

④ 比較的割安な民宿の運営コスト。

そもそも民宿は民間の使わずにある空き家を利用して観光客に宿泊とサービスを提供する場所である。そして管理者はたいてい地元出身者で、またほとんど夫婦二人で経営するうえに、掃除や食堂の調理、観光客へのサービスなどすべて統括してしまうという状況なので、食材が地元産

あるいは自家産のものが使われ、市場の流通に回らなくて済む分だけ価格も必然に安くなる。民宿は、たいてい観光地の近くにあることなので、利用者という客源があるかどうかの心配はほとんどない。民宿側にとっては、利用者が増えれば増えるほど利益も増加する。従い、民宿の運営にかかわるコストがそれほど高くはないことが民宿産業の今後の持続発展を可能としていると考える。

５、目下民宿業における課題と解決策

① 多様化する観光客のニーズへの対応。

民宿の経営理念と管理・サービスレベルのさらなる強化が今後必要になる。たとえば、駅・空港までの送迎、客室に施す個性的な装飾まで、一般のホテルとの区別化を意識したサービスの取り組みを検討していくべきだろう。残念ながら、そこまで努力が足りない民宿が数多く存在している。反対に、もし多様なニーズに対応できなければ、そして運営の市場意識、特色を持たなければ、これからの激しい生存競争の中で負けてしまい、観光客が民宿から離れてしまう可能性も大いにある。

② 社会勉強と自然体験の場としての民宿。

確かに民宿は、宿舎であるが、観光客に単に寝る場所を提供するのではなく、その地域の歴史文化、伝統、人文、自然景観と生態特色を融合して、民宿を旅行文化の一部として見なすよう努力してほしい。

なぜならば、消費者層から見れば、30 代 40 代 50 代の人たちは、宿泊設備を含めたハード面での充実よりも、より親身なサービスや非日常的な経験を含めたソフト面の充実を民宿に求める。彼らは、もし泊まる設備だけを求めるならば、高級ホテルにいけばよい。でもそれぞれの民宿には皆、独特な文化があり、体験の場でもある。更に温かい家庭の雰囲気もあるので、時には、家族そろって、時には、友人同士、同僚たちと一緒に違った気持ちで民宿を利用することを選択する。

③ 民宿運営をネット化にする必要がある。

グローバル化、情報化になった社会では、今までの古い考え方、経営理念で民宿を運営するのは既に時代遅れ、意識の転換をしなければならない。例えば民宿の宣伝、経営方針の普及、サービス項目の設置、運営ルール、資源の共同化などを図るとともに、それらをすべてインターネット化にして、電子化サービスに変わらなければならない。より多くの観光客に知ってもらうためにもそのような工夫をすることが必要である。

④ 必要不可欠な地元の政府行政からの協力と支援・指導。

民宿の運営は比較的に参入障壁が低く、維持コストも安価であるため、安易に飛びつかれやすい側面がある。そのため、多くの民宿が将来の運営計画が乏しい傾向にある。一方で民宿のリフォームや修繕には資金がかかり、税金もかかり、一度の出費がかさむ場合もある。もし民宿の健全運営の理念のもと進められるような投資について、行政からの支援と指導があれば、より経営者も中長期的な発展を見据えながら事業を展開しやすい。民宿の持続発展もスムーズに進められる。さらに、民宿の危機管理や特に人材の育成、運営に必要なインフラ整備、環境の建設においては、民宿側の力だけでは、なかなか届かない部分もあり、行政からのサポートが求められる。

⑤区別化できる民宿の特色づくり。

それぞれの民宿が自分なりの特色を作り出すことに努力するべきである。

民宿においては、特色が持たなければ、持続発展の見込みがないが、同一化、類似化になると、競争力が失っていく。もし普通のホテルと同じようになったら、観光客にとって民宿は何の魅力もない。長期的に発展をさせようと思うならば、自分なりの経営理念を持ち、地元にある伝統文化を継承し、できるだけ、民宿におけるブランドと言われるほどの「名店」を作り出すこと――名所、名物あり、名コックさん、サービス名人がいることは大切である。また規範的なサービスも求められる。社会の発展と共に、時代の色彩がある観光文化の活動の中で最大限の生存空間を創造し、観光客の多様なニーズに答えてあげることが民宿業の持続的発展に有効となる。

６、まとめ

上述のように伝統的なホテルと違う民宿は、観光客に温かい優しい家庭の雰囲気を感じさせられるところであり、また民宿がある地域の文化、習慣、自然を体験できる場所でもある。観光業における民宿業の発展に従って、農山村という地域の就業率が高くなり、遅れている経済の活性化にも促進できる。民宿経済の発展により、自然景観と生態に対する保護のことも有効的に実現されつつある。現在、民宿は、農山村観光の一部として、観光業全体の発展にも繋がっている。民宿は、より多くの人々に注目されているはず。

今、中国の民宿業はまだまだ駆け出し途上であり、失敗も成功も事例が積みあがりつつある。失敗から教訓を、成功から経験を学んで、創造性に富んだ特色がある民宿が世の中にどんどん現れてくることを願う。そういう現状を踏まえて、民宿の持続発展の可能性が十分あり得る、民宿産業のさらなる発展を期待できると筆者が思っている。

中国社会科学院観光研究センターの副主任、研究員である李明徳さんは次のように述べた。「中国の伝統の中に民宿は人情交流においては、重要な一部である、旅行の時に困難があれば解決してくれる場所でもある、それが伝統の概念であり、今、民宿というのは、市場性という意義があり、民宿の起こしは、観光業に新しい活力、新しい魅力、新しいエネルギーが注入された。なので、民宿の発展は前途ようようたる」という。[6]

観光客は民宿に対する理解と要求を色々持ってやってくるが、とにかく温かい家庭の雰囲気が感じられる、民宿所在地の独特な風土人情と郷土文化を体験できるのが民宿に対する普遍的な見方になっている。民宿での非日常的な体験が彼らにとっての最大のお土産なのである。

これからもますます増えてくる観光客の多様なニーズにうまく対応できる民宿が多く誕生できることを期待する。

引用文献

[1]「中国民宿の発展現状及び発展展望」http://www.people.com.cn/　(2015, 12, 13)

[2]　「民泊って？」、朝日新聞, 4面, (2016, 9, 17)

[3]「2015年中国観光業統計公報」中国観光研究院観光データーセンター（2016, 10, 18）

[4]　伍策一剣,「中国ネット」, http://japanese.china.org.cn/ 、(2015, 10, 22)
[5]「2016 年中国民宿業市場現状分析及び発展趨勢予測」 http://www.chyxx.com、(2016, 6, 28)
[6] 黄山市で開催された中国第一回民宿大会での演説より

参考文献

1.「民宿研究」(１１) 林林總總の民宿談　(2016, 4, 22)

2.「民宿経済により、観光産業の発展を促す」中国農業新聞網　wwwfarmer.com.cn

3.「民宿観光の発展により、経済を促す」　中国経済情報網 (2016, 3, 22)

4.「江南農村観光の主旋律、中国の民宿は新しい主力軍になりつつある」中国網 (2015, 10, 22)
5.「中国民宿経済発展は両極分化の傾向が表しつつある」観研網 www. roresearch.org (2016, 1, 12)
6. 宮崎　猛「日本とアジアの農業・農村とグリーン・ツーリズム」昭和堂 2006 年

7. 青木辰司「転換するグリーン・ツーリズム広域連携と自立をめざして」学芸出版社 2010 年